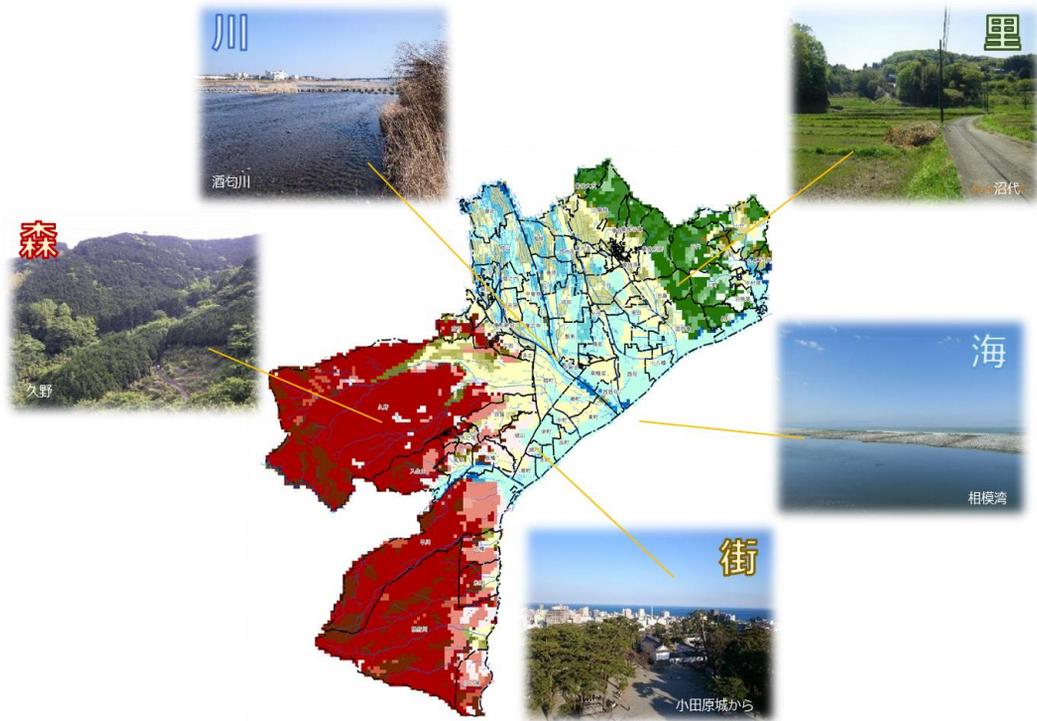


「小田原」を紹介する時にどんな特徴を挙げますか？小田原城などの歴史・文化、かまぼこや梅干しといった食、木製品などの地場産業・・・
 どれも森・里・川・海といった自然環境が揃っているからこそ生まれたものです。小田原市の基盤である豊かな自然環境を守り、つないでいくため、まずは「森里川海」が市内のどこにあるのか、見つけてみてください。



箱根の標高1,000m級の山々から連なる市西部の山地に「森」があります。スギ・ヒノキの人工林や二次林※¹が多く、特に片浦地区や久野地区には多くの動植物が存在する貴重な森林環境が保たれています。



水田や丘陵、梅やみかんの果樹園が広がる「里」は市東部に多く、ここ40年ほどで最も変化の大きい環境です。農業や人の生活の営みと共にあり、原風景※²が見られる場所でもあるため、残していきたい資源の一つです。



市のほぼ中央を流れる二級河川の酒匂川は、主流だけでなく周りに砂地や草地など様々な環境を生んでいます。市内で完結する川や、水田には多くの用水路などもあり、市内のいたる所にある水辺は、鳥、魚、昆虫などの大切な住処です。



海岸から約10kmで水深1,000mに達する相模湾は、日本三大深湾※³の一つです。多くの魚種が集まりやすく、地形を生かした定置網漁業が有名です。海岸に面した砂浜は貴重な自然で、砂浜特有の植物が自生しています。



小田原駅周辺にも多数の巨樹・巨木があることや、たくさんの神社やお寺があることで、街中にも緑が点在していることが特徴です。身近な自然は、人にも生き物にもいこいの場となっています。

※1 二次林…人の手による伐採や風水害、山火事などで森林が破壊された跡に、土中に残った種子や植物体の生長などにより成立した森林
 ※2 原風景…心のふるさとなるような昔懐かしい風景や景色
 ※3 日本三大深湾…駿河湾、相模湾、雷山湾